

試験飛行阻止！

木更津へのオスプレイ

整備も配備もやめろ

戦争・改憲・天皇代替わり攻撃と闘おう

千葉県労働者会議／全日本学生自治会総連合（伍代委員長）

東京都杉並区下高井戸1-34-9 ☎03-3329-0165/0168 <http://www.zengakuren.info>

陸自木更津駐屯地で整備していた米海兵隊MV22オスプレイは、「7月中旬以降に試験飛行の見通し」と公表されています。すでに2機目のオスプレイが6月25日に普天間から飛来しています。今後次々に整備のための飛行が強行されます。更に陸自が今秋にも導入を予定する17機のオスプレイは、佐賀空港への配備予定が困難な中、木更津への暫定配備をねらっています。墜落事故や緊急着陸、部品落下があいつぎ、危険な訓練飛行が抗議をよそにくり返され、沖縄をはじめ基地周辺住民のオスプレイ配備・飛行への怒りと不安は日に日に高まっています。これらの闘いと結びつき、戦争と人民虐殺のための輸送機＝オスプレイが常時木更津の空を飛び交い、整備拠点、配備基地としてうち固められることを拒否しよう。試験飛行を阻止しよう。木更津駐屯地を解体しよう。

突撃部隊の輸送機＝オスプレイの整備・配備を許すな

オスプレイは米軍・海兵隊の輸送を目的として開発されました。全軍の最先頭で「敵地」に強行上陸し「敵」のせん滅－虐殺を主任務とする、いわば「なぐりこみ部隊」の輸送機です。陸上自衛隊は今年3月佐世保の相浦駐屯地で、日本版海兵隊といわれる「水陸機動団」を発足させ、「南西諸島防衛の強化」にむけた「離島奪回部隊」を最前線に運ぶためのオスプレイ17機の導入を今秋にも行おうとしています。

当初計画していた佐賀空港への配備が、2月の神埼市の民家への戦闘ヘリ墜落・炎上事故で困難とみた防衛省は、木更津駐屯地への暫定配備の検討を始めたと明らかにしました。これに対する木更津住民の配備反対の声が大きく広がる中、防衛省は7月10日木更津市長に対して、「決定した事実はない」と説明したと報道されています。しかし、佐賀空港への配備を追求しつつ「暫定配備は検討中」として、木更津への暫定配備を否定しているわけではありません。

木更津が候補にされたのは、すでにオスプレイの整備拠点としての運用が開始されているからに他なりません。現在整備のためにいる2機について、沖縄米軍普天間配備の残りの22機、新たに配備が予定されている横田米軍基地の5機、そして配備がどこになると陸自の17機が、今後整備のために入れ替わり立ち代わり木更津に飛来することはわかりありません。

オスプレイをはじめ、米軍・自衛隊機の事故が多発しているのは、整備も追いつかないほどの実戦訓練の激化、夜間や低空飛行などの危険飛行が横行しているからです。事故を起こしても、日本政府の形ばかりの「抗議」と米軍の短期間の飛行停止・点検で、何事もなかったように危険飛行が再開されています。日米協定の問題もありますが、そもそも米軍・自衛隊—帝国主義軍隊は人民を守るのではなく、人民に銃口を向け制圧するための機関に他なりません。沖縄戦はこの本質を徹底してあらわにしています。木更津を戦争と人民虐殺の出撃拠点にするな。オスプレイ配備を絶対許すな。駐屯地を解体しよう。

労働者人民の命より政治生命に執着する安倍を許すな

7月20日、安倍自・公政府は「カジノ法」の成立を強行し、延長した会期を二日残して通常国会を事実上閉会しました。モリ・カケ問題をめぐる文書隠蔽や改ざん、偽証、ウソの上塗り、防衛省日報隠蔽、厚労省のでたらめデータ、財務省官僚のセクハラや文科省官僚による不正入学など、内閣が一つや二つ倒れても当然の許しがたい「不祥事」続出を、安倍は鉄面皮な居直りでかわし、会期を延長して安倍の言う「重要法案」の成立を強行しました。資本の意のままに労働者酷使・過労死を推進する「働き方改革」、農業破壊のTPP。そして西日本豪雨で警報や避難警告が出され、200人を超える死者と水害のすさまじい惨状が明らかになる最中でも、自民党の私利私欲のための参院定数増、ギャンブル漬けと借金まみれの被害よりもトランプや維新の利害を優先するカジノ法の成立を強行しました。5日夜には議員宿舎で「赤坂自民亭」と称した酒宴を開き、ネットで写真を公開しています。そこには翌朝オウム真理教の7名の死刑執行を指示する署名をした法務大臣上川陽子も親指を立て笑顔で写っています。我が手で7名の命を絶つことへの緊張も、その瞬間にも氾濫する川や土砂崩れで命を奪われる危険が多くの人々におよんでいることへの危機感もなく、おごり浮かれる安倍自民党を許すな。

戦争・改憲・天皇代替わり攻撃と闘おう

「朝鮮半島を再び戦火で焦土にすることは許さない」—南北労働者人民の不退転の闘いを大きな規定力として南北、朝米会談が実現し、一触即発の危機がひとまず回避されました。この過程でも「圧力の継続」を突出して主張し続けた安倍は、今も戦争突撃の構えと自衛隊の増強、そして改憲の策動を推し進めています。総裁三選を果たし、自分の手で改憲に手をつけ、19年天皇代替わり、20年オリンピック・パラリンピックを成功させようと突撃しています。絶対に粉碎しよう。オウムの死刑執行にあらわなように、「平成の事件は平成のうちに」と、天皇代替わりへの道を掃き清め、19年をメーデーをつぶし天皇（制）賛美・祝賀一色で塗り固めようとする攻撃を許さず闘おう。

三里塚・沖縄・福島闘いと結んで闘おう

沖縄辺野古では8月17日土砂投入強行に向けてゲート前の柵の新設など阻止行動排除の攻撃が激化するなか、どんな困難にも打ち勝つ基地建設阻止の闘いが続いています。三里塚では、異議審結審に身構え市東さんの農地強奪—強制執行阻止の実力決戦にむけ、現地天神峰への広範な結集がよびかけられています。福島原発被災労働者人民を先頭に、原発廃炉、核廃絶の闘いが行われています。この闘いと結びつき闘おう。（18/7/22）